

2022 年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

令和4年2月28日

愛知県 西尾市長 中村 健

提案全体のタイトル	カーボンオフセットが紡ぐ持続可能なまち にしお
提案者	愛知県西尾市
担当者・連絡先	[REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED] [REDACTED]

## 1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

### 1.1 将来ビジョン

#### (1) 地域の実態

##### (地域特性)

###### 1 位置・概要

西尾市は、愛知県の中央を北から南へ流れる矢作川流域の南端に位置し、面積は 161.22km<sup>2</sup>で、中部圏の中心である名古屋市の 45km 圏域にある。

東に三ヶ根山などの山々が連なり、西に矢作川が流れ、南は三河湾を臨んでいる。実り豊かな大地と温暖な気候が相まって、縄文のころより人の暮らしが営まれてきた。

矢作川が形成した岡崎平野の最下流域にあり、矢作川のかつての本流(現矢作古川)に沿って形成された標高 10mまでの低地が広がり、東部には標高 348.8mの主峰三ヶ根山を頂点とする山地があり、三河湾内には、有人離島の佐久島や無人離島の梶島、前島、沖島が点在している。

歴史的には、鎌倉時代に足利義氏によって築かれたと伝えられる「西条城」は、この地域の拠点として発展を続け、「西尾城」と改称された江戸時代に城下町がつくられた。明和元(1764)年、大給松平家の居城となると六万石城下町として商業がさらに賑わいを見せるようになり、その栄華は祇園祭として有形無形で今も大切に残されている。

昭和 28(1953)年に市制を施行し、西三河南部地域の中核的な都市として自動車関連産業の発展とともに成長を続けてきた。一方で日本有数の生産量を誇る抹茶(てん茶)やカーネーション、養殖ウナギ、アサリなど農水産物の生産拠点としても発展している。

また、歴史的な史跡や名所が点在し、伝統的な祭りや芸能も多く伝えられているほか、三ヶ根山や三河湾に浮かぶ佐久島を含む一帯は三河湾国定公園に指定され、風光明媚な名勝となっている。

海・山・川に囲まれた豊かな自然環境の中で、地域に根ざした多様な文化と農・工・商のバランスのとれた産業を育んでいる。



三河湾



西尾市歴史公園



稻荷山茶園公園



佐久島

## 2 人口動態

総人口は、令和4(2022)年1月1日現在で170,861人であり、これまで増加基調にあったものの、新型コロナウイルス感染症の拡がりの影響もあり、平成31(2019)年4月以降は減少傾向に転じている。

西尾市人口ビジョンによる人口の将来展望では、令和12(2030)年頃までは人口はゆるやかに増加し、その後、減少局面へと転じ、令和42(2060)年には16.5万人と現状の人口より7,000人程度少なくなる見通しを立てている。

年齢別の人団構成は、平成27年から令和2年までの5年間の推移をみると、65歳以上の老人人口は23.4%から25.2%に増加した一方、生産年齢人口(15~65歳未満)と少年人口(15歳未満)は減少しており、少子高齢化が進行している。将来推計では、令和42(2060)年には老人人口の割合が32.4%となる見込みで、今後さらなる高齢者の増加、現役世代の減少が見込まれている。

総人口の6%程度を外国人人口が占めており、日本人人口が減少する中にあって外国人人口の増加が顕著となっている。外国人人口は令和4(2022)年1月1日時点での9,911人と平成27(2015)年の約1.7倍となっている。国籍別の内訳ではブラジル国籍が最も多く、近年ではベトナム国籍が急増している。

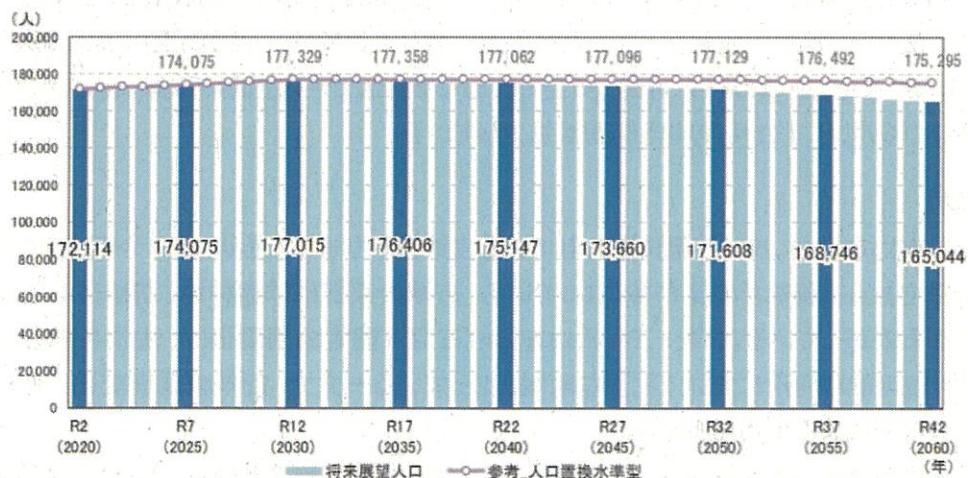


図 人口の将来展望(西尾市人口ビジョン)

## 3 経済・社会・環境の現状

### 【経済】

西三河南部地域の中核的な都市として自動車関連産業を中心に発展を遂げており、一方で日本有数の生産量を誇る抹茶やカーネーション、養殖ウナギ、アサリなどの農水産業も盛んである。

産業構造をみると、自動車関連産業を中心とした第2次産業の集積が高いことが特徴であったが、徐々に観光業やサービス業などの第3次産業の割合が増えてきており、平成17

年(2005 年)には第3次産業の就業者数が第2次産業の就業者数を上回った。第1次産業の就業者をみると、全国や県の値より構成比率は高いものの、就業者数は減少傾向となっている。

市内には「憩の農園」や「一色さかな広場」、「佐久島」、「吉良温泉」など歴史や文化、自然などに関連づけられた豊富な観光資源があり、年間 350 万人程度の観光入り込み客数がある。

### 【社会】

新型コロナウイルス感染症の発生により、本市も含めて日本経済に多大な影響を及ぼし、今後の景気状況は先行き不透明な状態にあり、今後も厳しい財政状況が見込まれている。

これまで堅調な人口を遂げてきた本市においても人口の減少局面に入り、今後は少子高齢化の一層の進展や外国人との共生などに起因する地域課題への対応が求められる。地域において多様な人材が活躍でき、住民が誇りを持って自主・自立のまちづくりを実践できるように、地域の力を結集して魅力あるまちを作り上げていくこと必要がある。

公共サービスを提供する意欲と能力を備えた市民活動団体や企業などの多様な主体により担われる「新しい公共空間」が形成されつつあり、また、指定管理者制度や公共サービス改革法など、行政が直接担ってきた公共サービスを民間等が担う制度の導入も進められている。また、地域の防災対策、安全で安心して生活できる空間の確保、環境を重視した社会づくりなど、「公共」の担う範囲が拡大している。

### 【環境】

西尾市は市域の 70%が緑に覆われている自然豊かなまちであり、水田や畠、特に本市の特徴である茶畠などの緑が多くなっている。市域の東部には樹林地、南部には養鰻場の水面も広がっている。また、三ヶ根山を含む三河湾国定公園周辺は、生物多様性の保全と持続可能な利用において重要な地域となっている一方で、近年の環境変化に伴い絶滅の危惧が高まる生物種もある。

ごみ排出量は、家庭系ごみ、事業系ごみのどちらも増加傾向にあり、市民1人1日あたりのごみ排出量は愛知県の平均値を上回っている。こうした状況を改善するため、リデュース(排出抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)の3Rにリフューズ(発生回避)を加えた4Rの取組を推進している。

平成 29 年度からの 10 年間を計画期間とする第2次西尾市環境基本計画では、多様な生物を育む三河湾や矢作川、三ヶ根山や身近な里山といった本市の貴重な地域資源を次代に引き継ぎ、持続可能な社会を構築することを目指し、めざす環境像を「海・川・山 豊かな自然と暮らしがつながり とけあう 潤いに満ちたまちを未来へ」と定め、市民、事業者、行政全員の参加・協働により、環境保全施策の推進を図っている。

### (今後取り組む課題)

#### 1 農水産業と観光・サービス業との連携による地域経済の活性化 【経済】

- ・西尾市は全国や愛知県の平均と比較すると第1次産業の就業者割合は高いものの、第3次産業就業者が増加し、第1次・第2次産業の就業者数は減少している。自動車関連産業を中心とした産業構造の多角化を図るとともに、農商工連携や6次産業化などの取組を推進するなど、観光、サービス業などの第3次産業と、第1次・第2次産業の効果的な連携を図り、本市の特徴を活かした持続可能な地域経済の活性化に取り組んでいく必要がある。
- ・本市の製造業製造品出荷額は約 1.8 兆円の規模を誇るが、そのうち輸送用機械器具製造業が約8割を占め、その中でもエンジン系部品とトランスマッision部品に偏った産業構造となっている。Society5.0 や DX(デジタルトランスフォーメンション)、2050 年のカーボンニュートラル社会の到来など、変革の激しい時代においても産業の中心となり活躍し続けていくためには、SDGs の理念に沿った企業活動、生産へと転換していくことが重要な課題となっている。

#### 2 少子高齢化の抑制、多様な主体の共創と生涯活躍の地域づくり 【社会】

- ・今後さらなる高齢者の増加、現役世代の減少が見込まれており、高齢期においても地域において居場所や活躍の機会がある生涯活躍のまちづくりを進めるとともに、若者や女性、障がい者や外国人など地域で共に暮らす多様な人々が共生できる、「誰一人取り残さない」社会を実現するため、お互いを認めあい、連携し共創により地域課題の解決に取り組める地域を築いていく必要がある。
- ・特に、近年は外国人の転入が多く、出生に占める外国人の割合も高くなっています。今後も、本市の人口を維持・増加させていくためには、外国人にも定住しやすい環境が必要となる。外国人の労働者は主に製造業が中心であるが、永住者や定住者の外国人が増加するなか、他の産業でも外国人が活躍できるような環境を構築していくことが必要である。

#### 3 資源有効活用、低炭素・脱炭素社会の実現、自然・文化の保全・活用・継承 【環境】

- ・自然豊かな本市の魅力を次世代にも受け継ぎ、持続可能な地域を守っていくため、自然環境の保全を基本として、資源やエネルギーの有効活用、低炭素・脱炭素の社会づくりに取り組み、海・川・山などの自然とつながる豊かな暮らしを支える取組を進めていく必要がある。

## (2) 2030年のあるべき姿

本市が有する三河湾、矢作川、三ヶ根山といった豊かな自然をはじめ、西尾市歴史公園をはじめとする歴史・文化、抹茶やうなぎ、えびせんべいといった食、自動車関連を中心とした産業、全国有数の生産量を誇る花きなどの農産業、マラソンやバレーといったスポーツなど、多様な魅力を市民が地域の誇りとして、これらの魅力を磨き、常に創意工夫して活用することで、西尾に訪れる人を増やし、まちが活気と賑わいにあふれ、西尾で暮らしたいと思う人を増やし、西尾がさらに活気とにぎわいに満ちていく、そんな持続可能で好循環なまちづくりを進めていくことを想定し、2030年のあるべき姿を「もっとワクワクするまち にしお」と掲げ、持続可能で好循環する夢や希望で満ちあふれた未来を市民が思い描き、皆がワクワク感を持って働き、暮らすことのできる、躍動感に満ちたまちを目指す。また、2030年のあるべき姿の実現に向けて、次の6つの基本目標を設定する。

西尾市が目指す 2030 年のあるべき姿 ~もっとワクワクするまち にしお~

### <基本目標>

#### 1 新たな魅力に挑戦するまち ~産業・文化・スポーツ振興分野~

既存産業の振興や新産業の創出、新技術を活用した農業振興、歴史・文化の価値の再発見といったシビックプライドの醸成、スポーツを活用した市民が元気になる仕組みなど、市内の資源を活用して、新しい魅力の創造・発掘・発信に挑み続け、すべての人が持続的で働きがいのある仕事に携わることができるまちを目指す。

#### 2 誰もがほっとする持続可能なまち ~社会基盤分野~

西尾に暮らし、働き、学び、訪れる、あらゆる人にとって、災害にも不安を抱き怯えることのない「ほっと」する気持ちで暮らせるまち、道路や公園や公共交通など便利で快適に暮らせる「ほっと」できるまち、そんな「ほっと」感があふれるまちを持続し、すべての人に安全な生活環境を提供し、持続可能なまちを目指す。

#### 3 ともに楽しみ、ともに学び、ともに夢みるまち ~子育て・教育分野~

親、子ども、友だち、みんながともに遊び、ともに楽しみながら子育てができ、子どもたちが健やかに育つまち、子どもも大人もいくつになってもともに学ぶことのできるまち、充実した教育と生きる力を育み、友だちや仲間とともにそれぞれの将来の夢に向かって一緒に考え進んでいき、すべての人に公平で質の高い教育の機会を提供するまちを目指す。

#### 4 健康をつなげ 幸せがつながるまち ~健康・福祉分野~

市民が心身ともに健康な状態を継続でき、地域医療体制が充実し市民の健康に寄与し、住み慣れた地域で切れ目のない支援が受けられる健康づくりの仕組みをつくること、全てがつながり、地域がつながり支えあい、市民が分け隔てなく笑顔で幸せがずっと続き、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活が確保できるまちを目指す。

## 5 いのちを守る 暮らしを守る 環境を守るまち ~自然環境・生活分野~

市民の命や財産をあらゆる災害から守り、犯罪に巻き込まれることのないよう市民のいのちの暮らしを守れるまちを目指す。また、海、山、川といった豊かな自然環境を守り、潤いに満ちた暮らしをおくことのできるまちを目指す。更に、次代を担う世代が西尾の環境に誇りをもち、積極的にその保全に取り組むことができるまちを目指す。

## 6 誰もがキラキラと輝き、誇り・愛着の持てるまち ~市民・行政分野~

市民、団体や企業、行政などのあらゆる主体が、性別や年齢、国籍の垣根を越え、助け合い生涯活躍する、そのようなキラキラと輝く人であふれるまちを目指す。また、キラキラ輝く人たちがまちづくりの推進力となり、まちづくり活動をすることで、誰もが西尾に魅力を感じ、好きになり、愛着を持ってもらえるまちを目指す。

### ＜今後取り組む課題に対応した 2030 年のあるべき姿＞

#### 1 農水産業と観光・サービス業との連携による地域経済の活性化 【経済】

- ・本市全体においては、Society5.0 や DX、カーボンニュートラルなどの社会動向を的確に捉えて、観光、サービス業などの第3次産業と、第1次・第2次産業の連携が促進され、豊かな自然環境に恵まれ、歴史・文化・産業など他都市に誇れる固有の魅力を有する本市の特徴を活かした持続可能な地域経済の活性化、産業構造の多角化に向けた取組が活発化している。
- ・特に、有人離島の佐久島においては、離島ならではの環境や立地条件などを活かした「稼ぐ力」の強化が図られており、交流人口や島内消費が一層拡大され、地域経済が活性化している。

#### 2 少子高齢化の抑制、多様な主体の共創と生涯活躍の地域づくり 【社会】

- ・若者や女性、障がい者や外国人など地域で共に暮らす多様な人々が共生・共創し、安心してゆとりある暮らしが育まれており、高齢期においても地域に居場所や活躍の機会があり生涯にわたって活躍できる、「誰一人取り残さない」社会が実現されている。
- ・外国人にとっても定住しやすい環境づくりが進められ、製造業をはじめとする様々な産業で労働力として活躍し、地域においても日本人住民と共生している。

#### 3 資源有効活用、低炭素・脱炭素社会の実現、自然・文化の保全・活用・継承 【環境】

- ・海・川・山などの自然とつながり、歴史や文化を身近に感じることができる豊かな暮らしを支えるまちとして、自然や文化の保全・活用・継承とともに、資源やエネルギーの有効活用、低炭素・脱炭素の社会づくりに取り組むことにより、自然と文化に育まれた本市の魅力が次世代に受け継がれ、持続可能な地域が守られている。

(3) 2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
8  8, 9	指標: 交流人口(観光入込客数) 現在(2019 年): 352 万人	2023 年: 450 万人
8  8, 9	指標: 佐久島渡船乗船人数 現在(2016 年度): 255,649 人	2025 年度: 260,000 人

農水産業と観光・サービス業との連携による地域経済の活性化を図り、本市及び佐久島へ来訪する観光交流人口を増加させ、2030 年のあるべき姿の実現を図る。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
11  11, 1	指標: 佐久島移住者数 現在(2017 年): 29 人	2030 年: 30 人

少子高齢化の抑制や多様な主体の協働と生涯活躍の地域づくりを推進し、本市及び佐久島の暮らしの魅力を高め、2030 年のあるべき姿の実現を図る。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
7  7, 2 7, 3	指標: 温室効果ガス排出量 現在(2013 年): 1,630.5 千tCO <sub>2</sub>	2030 年: 916.2 千tCO <sub>2</sub>
13  13, 1		
12  12, 2 12, 5	指標: 市民一人一日当たりのごみ排出量 現在(2016 年): 1,036g	2030 年: 1,034g

資源の有効活用や低炭素・脱炭素社会の実現、自然・文化の保全・活用・継承等を推進し、温室効果ガス排出量やごみ排出量の削減を図り、2030 年のあるべき姿の実現を図る。

## 1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

### (1)自治体SDGsの推進に資する取組

#### 【経済】

##### ①農水産業と観光・サービス業との連携による地域経済の活性化

###### ①-1 多様なステークホルダーの連携による推進体制の構築

ゴール、ターゲット番号	KPI(任意記載)	
17 	指標:にしおSDGsパートナー(仮称)認証数	
	現在(2021年度): 0 団体	2024年度: 10 団体

#### ■SDGs推進に向けた「にしおSDGsパートナー認証制度」の構築

西尾市におけるSDGsの達成に向け、市民、企業・事業者、団体などの多様なステークホルダーによる幅広い活動の推進のため、SDGsに関連する活動に取り組んでいる、又は関心を持っている者の交流や情報交換を通じて、各々の活動の活性化を目指す「にしおSDGsプラットフォーム」を創設し、主体的・自発的な取組意思が明確な市民、企業・事業者、団体などの多様なステークホルダーを市が認証し、「にしおSDGsパートナー認証制度」を構築する。

##### ①-2 离島における稼ぐ力の強化

ゴール、ターゲット番号	KPI(任意記載)	
8 	指標:佐久島交流人口	
	現在(2019年): 106,000人	2025年: 120,000人
8 	指標:ワーケーションプラン利用人数	
	現在(2020年): 0人	2025年: 10人

#### ■佐久島クラインガルテン

佐久島の遊休農地を活用した宿泊滞在型農業体験施設「佐久島クラインガルテン」を運営。島の生活体験や農業を核とした交流とともに、利用者枠を法人に広げ、新たな生活スタイルの推奨、島の産業等の創出を図る。

#### ■離島 de ワーケーション

With コロナを見据え、島内の観光事業者と連携し、佐久島の弁天サロンを活用したワーケーションプランを実施する。

### ①-3 農産物の地域ブランド化

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
8, 3 	指標:特產品による新商品開発数(累計)	
	現在(2019年): 11件	2025年: 16件

#### ■新商品開発支援事業

観光協会と連携し、新商品開発の取組を実施する。

#### ■スマートアグリシティ西尾構想の推進

JA西三河きゅうり部会の先駆的取組であるデータ駆動型スマート農業を発展させるとともに、他品目へも横展開を図り、本市の農業生産基盤の維持及び経営規模拡大(雇用型経営への移行)を推進する。

#### ■水産資源の回復・漁業経営安定化

アサリ等の資源回復のため、稚貝放流、親うなぎ放流を行い漁場環境の改善を図るとともに、共同利用施設等の整備を行い漁業経営の安定化を図る。

#### ■水産資源保護事業

水産資源の安定的な供給を図るために、アサリの生態調査や保護、アサリに代わる資源の試験養殖等の活動に対して支援する。

### ①-4 自然・文化資源を活かした観光交流の促進

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
8, 9 	指標:交流人口(観光入込客数)【再掲】	
	現在(2019年): 352万人	2023年: 450万人

#### ■佐久島を中心としたサステナブルツーリズム

佐久島の自然を体験し環境を保全するサステナブルな観光コンテンツを造成し持続可能な観光事業を展開する。

#### ■にしお健康ツーリズム

「楽しく、美味しく」をキーワードとして、農産物、温泉、山・海の自然、観光施設等を活用した未病の改善や疾病予防等の健康づくりができるツアーを、官民連携で実施していく。

#### ■GoGo三河湾協議会事業

三河湾を囲む西尾市・蒲郡市・田原市・南知多町の3市1町と観光協会で構成される「GoGo三河湾協議会」と連携し、誘客を図る。

## 【社会】

### ②少子高齢化の抑制、多様な主体の共創と生涯活躍の地域づくり

#### ②-1 誰一人取り残さない居場所づくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
8 	指標:西尾市子ども・若者総合センター「コンパス」の連携団体数 現在(2022年): 25団体	2025年: 80団体

#### ■西尾市子ども・若者総合センター「コンパス」

官民連携により、15歳から39歳の子ども・若者を対象に、引きこもりや不登校の相談をはじめ、進路や就職への不安、家庭内暴力、LGBTQ+など多岐にわたる相談を受け付け、多くの子ども・若者の社会的自立、修学・就職・生活支援へつなげる。

#### ■多文化共生のまちづくり

外国人市民が生活するために必要な生活情報の多言語表示化や通訳・翻訳等の生活支援、生活相談等を進め外国籍住民が暮らしやすい環境整備を進める。

#### ■日本語初期指導教室カラフル

日本の学校生活に慣れるための初期指導が必要な児童生徒(小中学校)に対するプレクラスとして運営する。

#### ■多文化ルーム KIBOU

外国にルーツを持つ子ども(5歳~18歳)の就学支援につながる様々な取組を行うプレスクールとして運営する。

#### ■外国人向け YouTube チャンネル「にしお de こんにちは」

自治体の公式チャンネルとして外国人向けに専用で情報発信を行う。

#### ■外国人向け情報紙の発行

市内在住の外国人向けの情報紙として、やさしい日本語に加えてポルトガル語版、ベトナム語版などでも発行する。

#### ■災害多言語コールセンター

災害時に外国人からの問合せに対して多言語で対応可能な専用コールセンターを開設する。

#### ■日本語能力試験の促進事業

外国人の日本語学習を最大限サポートするため受験者への支援を行う。

## ②-2 若者・女性・高齢者・障がい者など誰もが活躍できる地域づくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
17 	指標:にしお市民活動情報サイト登録団体数	
	現在(2016年): 135団体	2023年: 300団体

### ■市民と協働するまちづくり推進事業

校区コミュニティ単位に若手経営者、女性起業家等が主体となり、事業承継のための経営基盤の整備や未利用資源を活用した新たな価値創造のため、「共創プラン」策定とその後の支援を行うことにより、人口減少をくい止め、地域力の高いコミュニティ社会の形成に取り組む。

### ■生涯現役応援窓口

就労の機会や地域活動の場を望む高齢者が自身のセカンドライフで何ができるか考え、職場や地域とのマッチングを行う仕組みをつくる。

### ■地域いきいき創生事業

地域が主体となって行う事業計画について、市が共創プランとして認定し、事業の実施を支援する。

### ■農福連携事業

農業労働力を求める農業者と農作業への就労を希望する障害者とのマッチングを行う。

### ■佐久島海水淡水化事業

離島における日常的な安定した給水を確保するとともに、災害時・渴水時等の水不足に対する不安を軽減するため、佐久島における海水淡水化施設の導入に向けた調査検討を行う。

### ■「買い物弱者物流支援システム」の運用

買い物弱者(単身高齢者等)に飲食品等を配達するシステムを構築する。

### 【環境】

#### ③資源有効活用、低炭素・脱炭素社会の実現、自然・文化の保全・活用・継承

##### ③-1 离島の自然環境の保全・活用

ゴール、ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 7, 2	指標: 温室効果ガス排出量 【再掲】	
7, 3	現在(2013年): 1,630.5 千tCO <sub>2</sub>	2023年: 916.2 千tCO <sub>2</sub>
 13, 1		

##### ■佐久島活性化事業

地域住民団体、市内外ボランティアと連携し、アマモ移植による藻場の再生、里山保全、町並み保存活動、海岸の漂着ゴミ清掃等を実施して地域活性化を図る。

##### ■佐久島ESD事業(里山・海をフィールドにした体験プログラム)

里山から海までをフィールドに、参加者が体感して考える体験プログラムを実施する。

##### ■パワースクーター実証実験事業

離島における公共交通の課題解消に向けた取組の1つとして、誰もが気軽に安全に利用できる小型低速自動運転モビリティの導入・活用に向けた実証実験をAZAPAエンジニアリング株式会社と連携して行う。

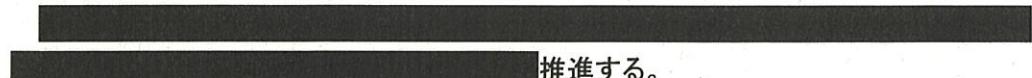
##### ■佐久島の自然環境調査・持続可能な活動指針の策定

佐久島の自然・海洋環境の保全・活用・継承に向けて、専門家等による調査を行うとともに、調査結果を踏まえた活動指針を策定する。

##### ③-2 低炭素・脱炭素の地域づくり

ゴール、ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 12, 2	指標: 市民一人一日当たりのごみ排出量 【再掲】	
12, 5	現在(2016年): 1,036g	2023年: 1,034g

##### ■「[ ]」の推進



推進する。

##### ■にしお大学環境学部事業

市、市民団体、民間企業が連携し、子どもから大人まで参加できる環境学習講座を開催し、SDGsの理念に沿った行動をするきっかけづくりを行う。

■プラスチックごみ(ペットボトル)削減事業

市職員のマイ水筒運動を実施するとともに、市庁舎や公共施設、主な観光交流施設等におけるウォーターサーバーの導入を検討し、ペットボトルの利用を抑制しプラスチックごみの削減につなげる。市による主体的な取組を契機として市内企業への波及効果も期待する。

■環境に配慮した市庁舎づくり・エコスタイル普及

地球温暖化防止や自然エネルギーの積極的な活用、太陽光発電装置や雨水、井戸水の利用装置を設置するなど環境に配慮した庁舎づくりを推進する。また、市職員が率先して省エネルギー行動を実践し、エコスタイルの普及啓発を図る。

■自然共生 自然のつながり体感プロジェクト(西三河南部生態系ネットワーク協議会)

市民活動団体や地元漁業協同組合等と連携し、三河湾の干潟や佐久島、矢作川や流域の里山等における体験イベント等を開催する。

■資源循環 ごみの分別・減量推進プロジェクト(食品ロスの削減、4R推進)

リユースやリサイクルなど4R活動を推進するとともに、大切な食べ物を無駄なく消費し環境保全にもつながる食品ロスの削減の啓発に向けた取組を推進する。

■再生可能エネルギーの活用

CO<sub>2</sub>排出削減のため、再生可能エネルギーへの転換や拡充に向けた検討を中部電力グループと行う。

## (2)情報発信

### (域内向け)

#### 1. 西尾市ホームページ、SNS、広報誌等の活用

西尾市ホームページ内に「(仮称)SDGs参加促進ポータルサイト」を制作し、本サイトを活用した情報発信・PRを行う。あわせて、SNSを積極的に活用するほか、広報誌ではSDGs特集記事を掲載するなど、広報誌を活用した全市民へのSDGsの情報発信を行っていく。

#### 2. 各種イベント等を通じた市民・事業者・市職員への周知・啓発

市民や事業者などが、SDGsや西尾市の環境について、カードゲームや講演を通じて身近な問題として考えることができるよう、SDGs関連イベントを企画・実施し、SDGsの周知・啓発を図っていく。また、市職員や市議会議員向けにも講演会を開催し、本市のSDGsに関する考え方を共有し、市全体としての一体的な取組を推進していく。

#### 3. 職員による出前講座

西尾市では、市内在住、在勤、在学の人向けの出前講座を行っており、SDGsをテーマにした出前講座を実施することで、本市のSDGsに関する取組などを紹介していく。

### (域外向け(国内))

#### 1. 西三河地域の自治体との連携

本市を含む9市1町からなる西三河地域においては、既にSDGs未来都市に選定されている豊田市や岡崎市などとの協力体制により、西三河全体での情報共有や意見交換を行う。

#### 2. SDGs関連イベントへの参加

2020(令和2)年度、2021(令和3)年度には「SDGs AICHI EXPO」に出展し、西尾市にある離島佐久島での藻場の再生活動、里山保全活動、海岸清掃を島外ボランティアと協力して行う保全活動と啓発活動などの紹介を行うほか、海岸に打ちあげられたゴミを使ったワークショップを実施した。今後もこのようなSDGs関連イベントに参加し、本市のSDGsの取組を周知していく。

### (海外向け)

本市では特産品の販路開拓をタイで展開しており、そうした取組との連携を図りつつ、海外に向けて本市のSDGsの情報発信を行う。

## (3)全体計画の普及展開性

### (他の地域への普及展開性)

本市では「Cラボ・西尾」の取組としてさまざまな企業・事業所等との連携により官民連携事業を展開しており、連携する企業・事業所等を通して情報発信を行うことで、全国的な情報発信、普及展開を図る。

また、佐久島の離島でつながるネットワークを活用し、愛知県、三重県の離島を有する自治体への情報発信をはじめ、全国の離島を有する地域へ普及展開を図る。

### 1.3 推進体制

#### (1)各種計画への反映

##### 1. 総合計画

現行の第7次西尾市総合計画(後期計画の計画期間 2018(平成30)年度～2022(令和4)年度)の計画期間が間もなく満了するため、2021(令和3)年度より、計画期間を2023(令和5)年度を初年度とする第8次西尾市総合計画を策定している。

第8次西尾市総合計画で検討している本市が目指すまちづくりの理念や将来都市像等は、「西尾市SDGs未来都市計画」に掲げる2030年のあるべき姿やその実現に向けた目標と考え方と同じとするものであり、この考え方に基づき、2022(令和4)年度には、SDGsの推進に資する取組やモデル事業の内容を踏まえて施策・事業の検討を行い、基本計画の策定につなげていく予定である。

##### 2. 総合戦略

西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、2016(平成28)年3月に、人口減少の克服と地域の自立的かつ持続的な活性化に向けた施策・事業を体系的に整理した計画として策定し、現在は2期目として、計画期間を2021(令和3)年度から2025(令和7)年度の5年間とする「第2期西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生の推進を図っています。

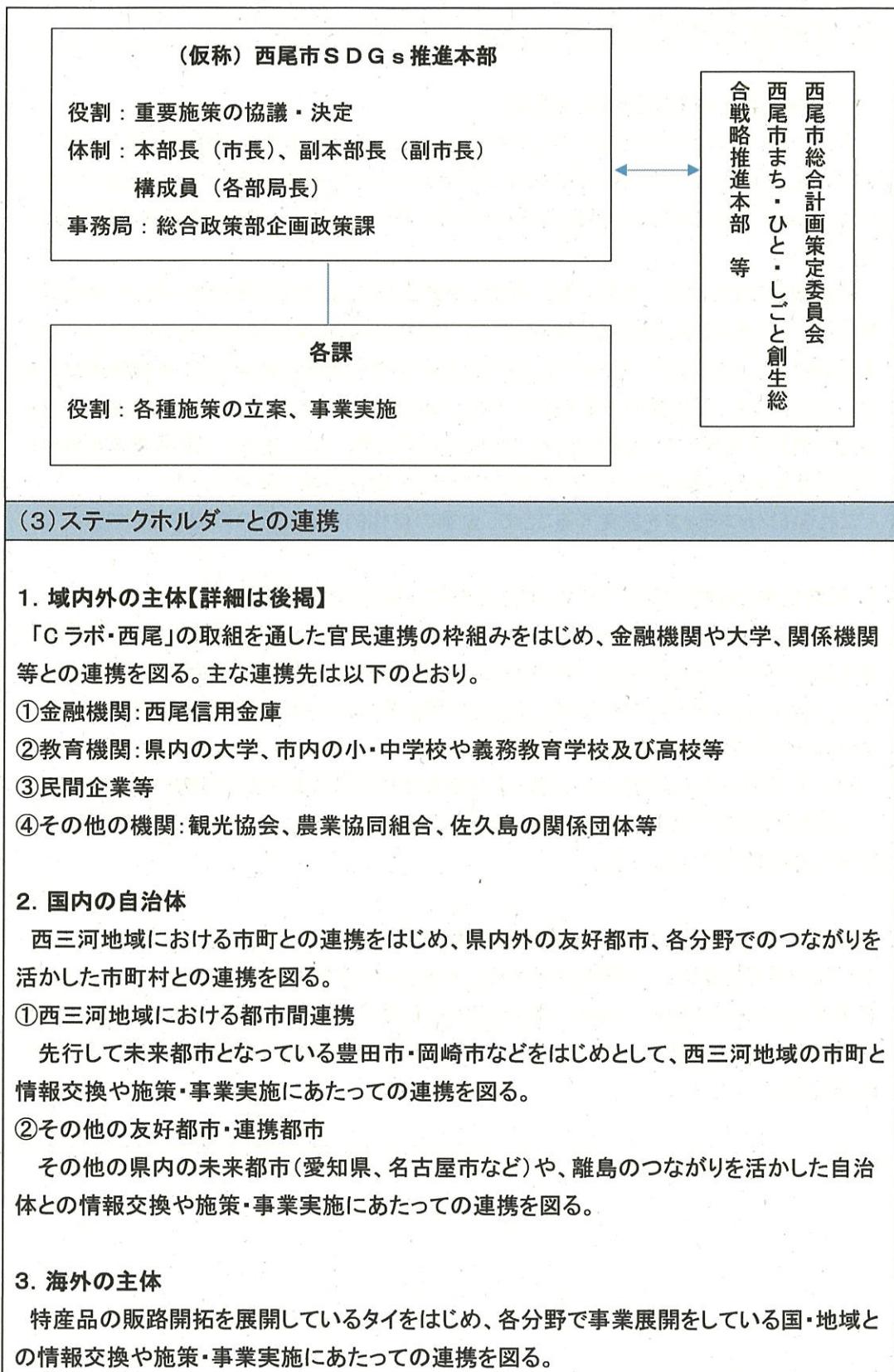
第2期総合戦略では、総合戦略の推進を図ることがSDGsの目標達成にも資することから、SDGsの視点を持った施策を検討し、SDGsを原動力とした、魅力的なまちづくりを進めていくことを基本的な方針として、SDGsにおける17のゴールとの関係を整理し、その達成に向けた取組を位置づけている。

##### 3. その他の各種計画

本市においては、その他の各種計画においても、計画に位置づける施策・事業などとSDGsの17のゴールとの関係を整理している。また、今後策定を予定している計画においても、SDGsとの関係性を整理していく予定である。

#### (2)行政体内部の執行体制

「西尾市SDGs未来都市計画」の推進にあたり、市長を本部長、副市長を副本部長とし、その他各部の部局長で構成する「(仮称)西尾市SDGs推進本部」を設置し、「西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部」、「西尾市総合計画策定委員会」等との連携のもとに、SDGsの推進を各部課の横断的な連携により全庁的に取り組む体制を構築する。「(仮称)西尾市SDGs推進本部」での協議・決定事項等は庁内へ周知し共有を図る。



#### (4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

##### 1. SDGs推進企業の認証制度の構築

本市においてSDGsの取組を広く進めていく上では、民間企業の積極的な関与が不可欠である。そのため、民間企業が率先してSDGsに資する取組を進めていくことができるよう、SDGsの理念に相応しい活動を行っている企業をパートナーとする認証制度を構築する。

認証制度においては、民間企業と連携し企業が製造・提供する財やサービス、環境活動などについてSDGsの視点で評価を行い、SDGsの適合性が高い企業名を市のHPで広く公開していくとともに、市HPや広報紙の広告枠の優先的な割当など、各種優遇策を検討していく。また、特に優れた取組を行っている企業については、市との包括協定を締結し相互の活動を支援していく事も検討していく。認証に際しては、先行して認証制度を実施している西尾信用金庫と連携し、相互認証を行うなど官民連携で進めていく。

これらインセンティブを設定することで、企業の自律的なSDGsの取組を促していく。

##### 2. 民間企業と連携したトップダウンによるSDGs推進支援の展開

民間企業が率先してSDGsに資する取組を進めていくためには、企業のトップの理解を得ることが不可欠となる。特に、本市の企業の多くを占める中堅・中小企業においては、企業トップの意向がその企業の活動に大きな影響を及ぼすため、中堅・中小企業のトップへの意識改革が重要である。

そこで、民間企業と連携して、中堅・中小企業がSDGsに取り組む意義を学ぶる場として、経営者を含めた社員全員がSDGsを理解する勉強会やセミナーなどの機会を提供し企業の意識改革を促していく。

##### 3. 民間企業を起点としたSDGs意識の自律的展開

1, 2の取組を通じて、民間企業が率先してSDGsに取り組んでいくことで、それぞれの従業員がSDGsの理念を理解し、理念に沿った行動へと誘導することが可能となり、さらに従業員を通じてその家族とSDGsの理念を理解し、理念に沿った行動へと誘導することが可能となる。

## 2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）

### 2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

#### （1）課題・目標設定と取組の概要

（自治体SDGsモデル事業名）

#### 官民共創による持続可能なにしおプロジェクト

##### （課題・目標設定）

ゴール7、ターゲット2



ゴール14、ターゲット1



ゴール15、ターゲット4



ゴール8、ターゲット9



ゴール3 ターゲット4



人口200人あまりの小さな島・佐久島では、島の8割以上が里山で、豊かな自然と昔ながらの懐かしい集落の風景が残っており、島の貴重な地域資源であり魅力である豊かな自然や海洋環境を後世に保全・継承していくため、また、この自然や海洋環境に育まれた豊かな暮らしを守り・継承していくため、これまで長きにわたって、アマモの藻場再生活動をはじめとして、SDGsの理念に通ずる環境保全活動などが行われてきた。

本プロジェクトは、官民共創により、この小さな島からはじまったSDGsの理念に通ずる取組をさらに拡充し、西尾市内全域へと展開させることにより、自然・海洋環境の保全を通じたブルーカーボンとともに里山の再生等によるグリーンカーボンを推進するほか、共生型社会の形成等につながるSDGsの理念や考え方を全市に波及させ、多様な主体が共生し安心して暮らし続けることができる持続可能な「SDGs未来都市にしお」を実現することを目標とする。

##### （取組概要）※150文字

愛知県内で3島しかない有人離島の一つである佐久島の自然・海洋環境の保全や共生型社会の形成等を通じた持続可能な環境と暮らしを守り・継承していくとともに、その活動をブルーカーボン、グリーンカーボン事業として市内外に広く発信し波及させていくことにより、離島を起点としたSDGsの輪をつなぎ、広めていく。

## (2)三側面の取組

### ① 経済面の取組

佐久島の豊かな環境の保全・継承に配慮しつつ、地域資源や魅力を活かしたサステナブルな観光交流の促進、関係人口（観光客、ボランティア、イベント参加等）の創出・拡大を図り、島の経済発展を実現するとともに、にしお健康ツーリズムとして市内全域での観光交流の促進、関係人口の創出・拡大につなげていく。

ゴール、ターゲット番号	KPI	
 8, 9	指標：交流人口（観光入込客数）【再掲】	
	現在（2019年）： 352万人	2025年： 450万人
 8, 9	指標：佐久島交流人口【再掲】	
	現在（2019年）： 106,000人	2025年： 120,000人

#### ①-1 佐久島を中心としたサステナブルツーリズムの推進

佐久島には魅力は多数あるものの、アート以外の資源があまり生かされておらず、夏季などの季節に来訪者が集中している現状がある。また、国定公園内という立地を生かして自然や多様な生物を満喫できる観光地づくりを行い、新たな来訪者層を発掘していくが、案内看板などの設置は国定公園内で難しいうえ、看板などの設置が折角の環境を壊しかねない。日本人の来訪者は増えているものの、外国人来訪者はほとんどおらず、外国人向けの看板やガイドを作成することも費用面から困難な面もある。こうした課題を解決するため、株式会社ジェイテクト等と連携し、環境にやさしい「音の AR アプリ『きくあるく』」を活用し島内の観光資源の音声ツアー」を展開するとともに、島の自然を最大限に活用した環境体験学習コンテンツを充実するなど、デジタル技術なども活用したサステナブルなコンテンツを造成し、新たな観光客層の掘起こしと来訪時期の分散化を通じた年間来訪者の増加、及び地域経済への波及、島の無形資源のアーカイブ化を推進する。

また、佐久島の遊休農地を活用した宿泊滞在型農業体験施設「佐久島クラインガルテン」を運営し、島の生活体験や農業を核とした交流とともに、利用者枠を法人に広げ、新たな生活スタイルの推奨、島の産業等の創出を図る。また、With コロナを見据え、島内の観光事業者と連携し、佐久島の弁天サロンを活用したワーケーションプランを実施する。

#### ①-2 にしお健康ツーリズムの推進

「楽しく、美味しく」をキーワードとして、農産物、温泉、山・海の自然、観光施設等を活用した未病の改善や疾病予防等の健康づくりができるツアーを、官民連携で実施していく。株式会社スギ薬局と連携し、企業等における健康診査などにおいて、健康上のリスクのあ

る人(特定保健指導の対象者及び対象にならないがリスクの高い人)を対象に、市内の温泉や抹茶等の食の資源を活用した健康プログラムを企画開発する。また、企画開発したプログラムを組み込んだモニターツアーを実施し、プログラムの検証と改善を図るとともに、観光事業者と連携して健康ツーリズム商品として販売の拡大を目指す。

#### (事業費)

3年間(2022~2024年)総額:27,000千円

#### ② 社会面の取組

島民等との協働により小さな島だからこそできる共生型社会の形成に向けた先導的な取組を実践するとともに、島でのモデル的な取組を市内全域に展開し、多様な主体・多世代・多文化が共生し安心して暮らし続けられる地域づくりを実現する。

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
8 	指標:西尾市子ども・若者総合センター「コンパス」の連携団体数 【再掲】	
	現在(2022年): 25団体	2025年: 80団体

##### ②-1 誰一人取り残さない居場所づくり

西尾市では、ひきこもり、ニートや不登校など様々な悩みを抱える子ども・若者とその保護者などからの相談を受け、修学、就職又は生活に係る包括的な支援をワンストップで行う西尾市子ども・若者総合相談センター「コンパス」を開設している。西尾市子ども・若者総合センター「コンパス」を拠点として、官民連携により、15歳から39歳の子ども・若者を対象に、引きこもりや不登校の相談をはじめ、進路や就職への不安、家庭内暴力、LGBTQ+など多岐にわたる相談を受け付け、多くの子ども・若者の社会的自立、修学・就職・生活支援へつなげる。コンパスでは、学校や社会に馴染めなかった子ども・若者の秘めた才能を見つけだし、彼らが活躍できる最高のフィールドを一丸となって探していくため、スタッフの育成拡充を図り、新たな取組みや連携を積極的に進めていく。

在住外国人にも暮らしやすい地域づくりを進めるため、外国人向けYouTubeチャンネル「にしお de こんにちは」や外国人向け情報紙(やさしい日本語、ポルトガル語、ベトナム語)の発行など、市内在住の外国人に向けた日常的な情報提供の充実を図るほか、災害時においても問合せ等を多言語で対応可能とする専用コールセンター「災害多言語コールセンター」の運用を開始する。また、外国にルーツを持つ子ども(5歳~18歳)の就学支援として、日本の学校生活に慣れるための初期指導を行うプレクラス「日本語初期指導教室カラフル」やプレスクール「多文化ルーム KIBOU」の取組を推進する。

## ②-2 安心して暮らし続けられる地域づくりの取組

株式会社日本旅行、株式会社日本旅行グローバルソリューションズ、株式会社アイシンと連携し、買い物弱者（単身高齢者等）に飲食品等を配達するシステム「買い物弱者物流支援システム」を構築する。

具体的には、西尾市でエリアを限定して実証実験を行い、実用化に向けた検討を進めていく。行政は、地域と事業者を仲介し、高齢者に優しい地域づくりを図る。

### （事業費）

3年間（2022～2024年）総額：117,336千円

## ③ 環境面の取組

佐久島の豊かな自然や海洋環境を後世に継承していくため、藻場の再生や海岸美化等の取組を実践し、島の自然環境や豊かな海を守っていくとともに、島から始まった環境保全の取組を島外への展開し、西尾市全体でのブルーカーボン・グリーンカーボン事業として推進する。

ゴール、ターゲット番号	KPI（任意記載）		
13 経済実体に 貢献的な対策を 	13, 1	指標：管理された竹林面積	
15 復元・再生も 含め 	15, 4	現在（2021年）： 0ha	2024年： 5ha

## ③-1 佐久島活性化事業の推進と市全域への普及

地域住民団体、市内外ボランティアと連携し、アマモ移植による藻場の再生、里山保全、町並み保存活動、海岸の漂着ゴミ清掃等を実施し、佐久島の地域活性化を図る。

佐久島で取り組んでいるアマモ移植活動については、二酸化炭素の排出を抑制するとともに、魚のエサ場となり、豊かな海へつながるため、活動可能な沿岸部へも普及することにより市全体のブルーカーボン事業として展開する。

その他、佐久島活性化を担う任意団体「島を美しくつくる会」が取り組む、ごみ減量活動、里山保全活動や、交通弱者のためのシニアカーの自動運転、海水の淡水化による安定給水の取組など、小さな島から取組が始まっているローカルSDGs事業の情報発信を行い、市全域への周知・啓発と活動の展開を図る。

## ③-2 「[REDACTED]」の推進

[REDACTED]を推進する。

[REDACTED]  
持続可能な社会を目指す。

### ③-3 「再生可能エネルギー」の活用促進

西尾市全域をフィールドとして、中部電力グループとの連携で二酸化炭素排出削減に向けた再生可能エネルギーへの転換や活用、拡充を検討する。

SDGsからゼロカーボンへつながる施策の展開を見据えて、再生可能エネルギーを市全体に波及するため、農業ため池での太陽光発電設備設置や未利用地での再生エネルギーの活用などを検討していく。

#### (事業費)

3年間(2022~2024年)総額:6,000千円

### (3)三側面をつなぐ統合的取組

#### (3-1)統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)

##### (統合的取組の事業名)

佐久島のアートを活かしたSDGsの取組とその展開に向けた仕組みづくり

##### (取組概要)

佐久島において、海岸漂着ごみなど島内のものを利用し、アーティストなどが創作・展示するSDGsアート展を開催するなど、島をまるごとSDGs教育の場とする事業を展開する。活動を市内外に広く情報発信することで、SDGsの理念をより広く啓発していく。事業の推進に際しては、多様な主体と連携し展開していく。

##### (実施事業)

###### ①佐久島におけるアートを活かしたSDGsの取組

佐久島では、「島を美しくつくる会」が中心となって、「アートと地域の協働」(アートによる島おこし)をテーマにした島の活性化に向けて、自然、風土、歴史、産業といった佐久島固有の資源を発掘・研磨し、島民や島外ボランティアとも協働しながら、様々な活動を推進している。アートによる島おこしは 1996 年から取り組んでおり、現在でも1年を通じて島内一円に展示されたアート作品を巡るスタンプラリー「アートピクニック」が楽しめるほか、様々なアートイベントを開催しているが、このアートによる取組をさらに拡充し、「佐久島アートの島 × SDGs」として各種事業を展開し、小さな島からつながるSDGsの輪を西尾市全域に波及させていく。

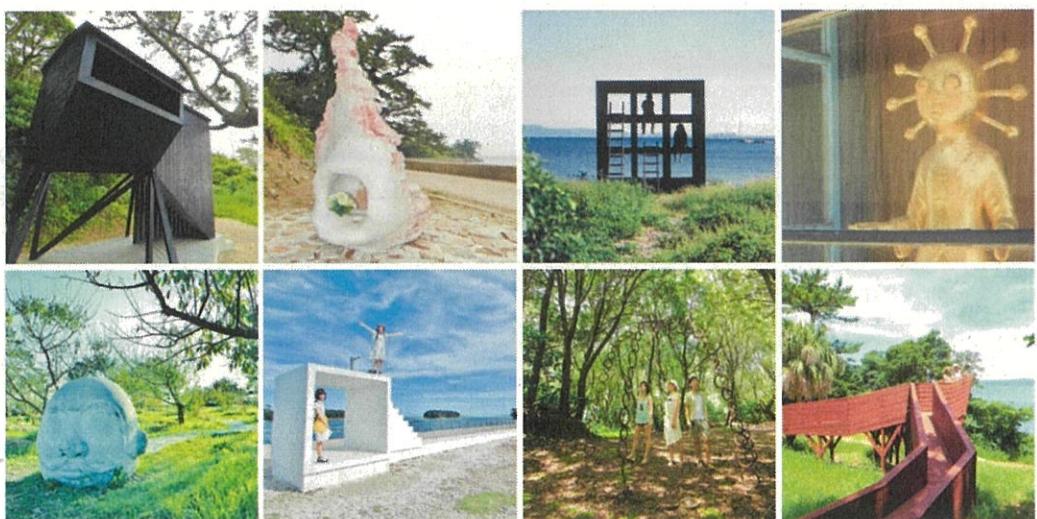


図 佐久島に展示されているアート作品

具体的には、以下のような事業を展開し、佐久島への来訪者をはじめ多くの人々にSDGsへの理解を深めてもらうとともに、佐久島への来訪者が増え消費することで、島内をは

じめ広く西尾市内にも経済波及効果を生み出し、交流人口や関係人口の増加、島の持続可能性の向上にも寄与する取組としていく。

- 佐久島でとれるもの（海岸漂着ゴミも含めて）を利用して、アーティストが作品を制作して、島内で展示するSDGsアート展を開催する。
- 「アートピクニック」のほか様々なアートイベントの開催を通じて、来訪者がSDGsアート展の展示に触れることができる機会を創出する。
- SDGsアート展の展示を見に来る来訪者が、アートを通じて、SDGsへの理解を深めてもらえるような環境教育の場としても活用する。

## ②SDGs推進に向けた「にしおSDGsパートナー認証制度」の構築【再掲】

西尾市におけるSDGsの達成に向け、市民、企業・事業者、団体などの多様なステークホルダーによる幅広い活動の推進のため、SDGsに関連する活動に取り組んでいる、又は関心を持っている者の交流や情報交換を通じて、各々の活動の活性化を目指す「にしおSDGsプラットフォーム」を創設し、主体的・自発的な取組意思が明確な市民、企業・事業者、団体などの多様なステークホルダーを市が認証し、「にしおSDGsパートナー認証制度」を構築する。

### （事業費）

3年間（2022～2024年）総額：5,300千円

### （統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫）

本モデル事業では、佐久島という離島における「経済」「社会」「環境」の三側面の取組を「官民共創による持続可能なにしおプロジェクト」の実践として統合化して、アートを活かしたSDGsの取組など、佐久島という離島ならではのSDGs実践の取組のプロセスや成果を「小さな島からつながるSDGsの取組」として広く発信し、島外の西尾市の全体への取組へと波及させ、そして市外へもその輪を広げていくことを目的としている。

「官民共創による持続可能なにしおプロジェクト」においては、佐久島への観光交流人口・関係人口の拡大を促す「経済」の発展につながる取組は、離島の豊かな海・自然の「環境」と自然とともに育まれ、受け継がれてきた島での暮らし「社会」の魅力があつて成り立つものである。その意味で、「官民共創による持続可能なにしおプロジェクト」を通じた「佐久島のアートを活かしたSDGsの取組」に関する情報発信や各種啓発活動等での交流を通して、また、多様なステークホルダーの連携によるSDGs推進に向け西尾市全体が一体となった取組の実践を通して、西尾市が有する「環境」「社会」の魅力を広く伝えるとともに、「経済」的な発展につながる取組を加速化させていく。

### (3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

#### (3-2-1) 経済↔環境

##### (経済→環境)

###### KPI (環境面における相乗効果等)

指標: SDGs・ゼロカーボンの視点を反映した事業化件数

現在(2021年):	2024年:
0件	3件

「佐久島のアートを活かしたSDGsの取組」をはじめ、「佐久島を中心としたサステナブルツーリズム」や「にしお健康ツーリズム」等を利用して佐久島及び西尾市へ来訪した人に対して、アマモ移植による藻場の再生、海岸の漂着ゴミ清掃等への参加を呼び掛けるとともに、アンケートにより自然環境保全に対する意向やニーズを把握して、今後の環境保全活動の効果的な実施に向けた企画立案、実施内容・方法等の改善に反映する。この相乗効果は、統合的取組で構築する「にしおSDGsパートナー認証制度」で認証したパートナーと連携して取り組むことで効果的に得ることができる。

##### (環境→経済)

###### KPI (経済面における相乗効果等)

指標: 佐久島交流人口【再掲】

現在(2019年):	2025年:
106,000人	120,000人

「佐久島活性化事業(ブルーカーボン事業)」や「竹林再生構想(グリーンカーボン事業)」による実証実験の結果や調査結果をもとに、佐久島及び西尾市の自然や海洋環境、里山環境などの魅力を活かした新たな観光商品の開発や付加価値の創出につなげるとともに、佐久島での観光交流人口や関係人口の更なる創出・拡大につながる新たな交流事業や体験プログラム等の造成につなげる。この相乗効果は、統合的取組で構築する「にしおSDGsパートナー認証制度」で認証したパートナーと連携して取り組むことで効果的に得ることができる。

#### (3-2-2) 経済↔社会

##### (経済→社会)

###### KPI (社会面における相乗効果等)

指標: 佐久島SDGsアートでつながる人

現在(2021年):	2024年:
0人	30人

「佐久島のアートを活かしたSDGsの取組」をはじめ、「佐久島を中心としたサステナブルツーリズム」や「にしお健康ツーリズム」等を利用して佐久島及び西尾市へ来訪した滞在者・宿泊者と島民や地域住民との多様な交流機会を設けることで、佐久島及び西尾市での

持続可能な暮らしの実現にあたっての課題を明確にするとともに、島民や地域住民自身が佐久島や西尾市での暮らしの魅力や価値に気づきシビックプライドを醸成することにより、より良い地域コミュニティの形成につなげる。この相乗効果は、統合的取組で構築する「にしおSDGsパートナー認証制度」で認証したパートナーと連携して取り組むことで効果的に得ることができる。

#### (社会→経済)

KPI（経済面における相乗効果等）	
指標：佐久島アートの体験プログラム数	
現在(2021年)： 0件	2024年： 5件

「多文化共生や安心して暮らし続けられる地域づくりの取組」に参加する市民や事業者、若手経営者や女性起業家等の新たな価値創造のための取組と関連づけて新たな交流事業や体験プログラム等の造成を行うことで、「佐久島のアートを活かしたSDGsの取組」をはじめとする佐久島及び西尾市での観光交流人口や関係人口の更なる創出・拡大につなげる。また、「誰一人取り残さない居場所づくり」をはじめとする様々な共生型社会形成の取組、多文化共生の取組に参加する子どもや若者と地域住民などとの交流活動の中で、子どもや若者の視点からみた佐久島や西尾市の魅力や観光交流の可能性を把握し、今後の新たな交流事業や体験プログラム等の造成につなげる。この相乗効果は、統合的取組で構築する「にしおSDGsパートナー認証制度」で認証したパートナーと連携して取り組むことで効果的に得ることができる。

#### (3-2-3) 社会↔環境

##### (社会→環境)

KPI（環境面における相乗効果等）	
指標：SDGs・ゼロカーボンの視点を反映した事業化件数【再掲】	
現在(2021年)： 0件	2024年： 3件

「多文化共生や安心して暮らし続けられる地域づくりの取組」に参加する市民や事業者、若手経営者や女性起業家等、「誰一人取り残さない居場所づくり」をはじめとする様々な共生型社会形成の取組、多文化共生の取組に参加する子どもや若者と地域住民に対して、アンケートにより自然環境保全に対する意向やニーズを把握して、「佐久島のアートを活かした SDGsの取組」をはじめとする今後の環境保全活動の効果的な実施に向けた企画立案、実施内容・方法等の改善に反映する。特に、若手経営者や女性起業家には、佐久島及び西尾市の自然環境の保全・活用・継承に関連した事業展開の可能性を検討してもらうことで、SDGsの視点を反映した事業化を促進する。この相乗効果は、統合的取組で構築する「にしおSDGsパートナー認証制度」で認証したパートナーと連携して取り組むことで効果的に得ることができる。

## (環境→社会)

## KPI（社会面における相乗効果等）

## 指標：管理された竹林面積【再掲】

現在(2021年)：	2024年：
0ha	5ha

「佐久島活性化事業(ブルーカーボン事業)」や「竹林再生構想(グリーンカーボン事業)」による実証実験の結果や調査結果を島民や地域住民、西尾市で活動・事業を行う団体・事業者にフィードバックすることにより、佐久島及び西尾市の各地域での持続可能な暮らしの実現にあたっての課題を解決するための取組につなげていくとともに、島民や地域住民自身が佐久島や西尾市での暮らしの魅力や価値に気づきシビックプライドを醸成することにより、より良い地域コミュニティの形成につなげる。また、「佐久島のアートを活かしたSDGsの取組」などの環境保全活動・環境教育活動、「佐久島活性化事業(ブルーカーボン事業)」や「竹林再生構想(グリーンカーボン事業)」に市内在住外国人・児童生徒などにも積極的に参画してもらいブルーカーボン・グリーンカーボン事業を通じた共生型社会の形成を促進する。この相乗効果は、統合的取組で構築する「にしおSDGsパートナー認証制度」で認証したパートナーと連携して取り組むことで効果的に得ることができる。

## (4) 多様なステークホルダーとの連携

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
島を美しくつくる会	佐久島を中心としたサステナブルツーリズムの推進、佐久島における共生型社会形成の取組、佐久島活性化事業等における連携
佐久島観光の会	佐久島活性化事業等における連携
島の未来をつくろう会	佐久島活性化事業等における連携
一般社団法人西尾市観光協会	佐久島を中心としたサステナブルツーリズムの推進、にしお健康ツーリズムの推進等における連携
地元金融機関 ・西尾信用金庫等	佐久島及び西尾市におけるSDGs関連事業での連携
AZAPAエンジニアリング 株式会社	佐久島におけるSDGsの推進(島民の移動手段)における連携
[REDACTED]	[REDACTED]
株式会社スギ薬局	にしお健康ツーリズムの推進等における連携
株式会社日本旅行、株式会社日本旅行グローバルソリューションズ・(株)アイシン	安心して暮らし続けられる地域づくりの取組等における連携
[REDACTED]	[REDACTED]
中部電力グループ	「再生可能エネルギー」の活用促進等における連携
ソフトバンク株式会社	ペッパーでの小中学生を対象としたSDGs教育の検討
大塚製薬株式会社	SDGsの推進における連携

明治安田生命保険相互会社	SDGsの推進における連携
佐久島及び西尾市でフィールドワークを行う教育機関	学生のアイデアを積極的に取り入れたSDGs関連事業の展開

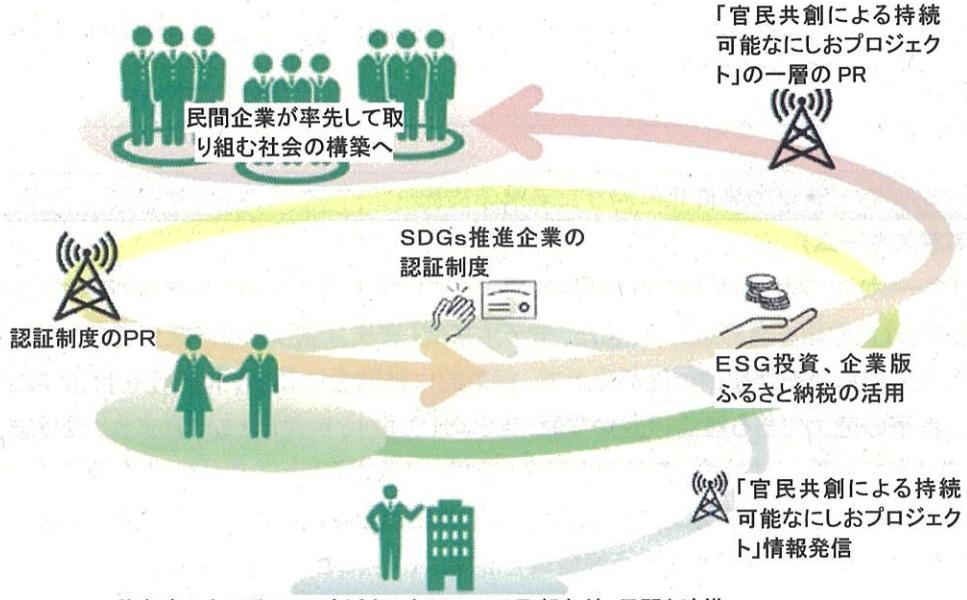
#### (5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

##### (事業スキーム)

「カーボンオフセットが紡ぐ持続可能なまち にしお」に基づくSDGs未来都市にしおの実現に向けた取組を進める上で、また、モデル事業「官民共創による持続可能なにしおプロジェクト」の取組を効果的に進める上で、将来的に補助金に頼らずに自走を目指すために、本市の魅力である離島の豊かな海・自然の「環境」と自然とともに育まれ、受け継がれてきた島での暮らし「社会」の魅力を保全・活用・継承することにより「地域の価値の向上」を進めることができ、本市の魅力や資源を活かした観光交流や関係人口の拡大等により「地域経済の活性化」につながるという好循環を形成していくことが必要である。

そのため、西尾市におけるSDGsに関する情報を一元的に集約・管理・発信を行い、離島ならではのSDGs実践の取組のプロセスや成果を広く発信し、「経済」「社会」「環境」の相乗効果を生み出すとともに、「社会」「環境」の価値を高めることが「経済」的な価値に結びつくモデルを構築することで、島民・市民、団体、企業・事業者等による自走的な取組へとつなげていく。また、佐久島を中心とした「小さな島からはじまるSDGsの取組」を西尾市全域に波及・展開することで全市的な自立循環型のSDGsの取組へと広げていく。特に、民間企業との関わりにおいては、創設を検討する「にしおSDGsパートナー認証制度」の状況や民間企業の事業活動内容等を広く情報発信することにより、市民や市場に対する認知度を高め、民間企業が率先してSDGsに資する取組を進めていくことができるよう自律的な好循環を形成していく。

### 事業スキームの図 自律的な好循環の形成



#### (将来的な自走に向けた取組)

将来的な自走に向けて、SDGsに資する取組により、地域資源を活用する民間企業や事業者へのESG投資、地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)の活用、離島の自然や暮らしに魅力を感じる域外住民による個人版ふるさと納税等の寄附金、取組を通じて創出・拡大を図る関係人口などファンの獲得につながるクラウドファンディング等を活用することにより、市の財政支出を抑制し自立的な好循環を創出していく。好循環の拡大が税収増につながり、必要な財源が確保され、事業の持続可能性が高まることを目指す。

ふるさと納税やクラウドファンディングの活用については、本モデル事業の取組内容と合わせて「西尾市SDGs参加促進サイト」を通して一層のPRをすることで、寄付額の拡大を図り、事業の財源として活用する。

#### (6)自治体SDGsモデル事業の普及展開性

##### (他の地域への普及展開性)

西尾市では、「佐久島におけるアートを活かしたSDGsの取組」などを先導的に実施し、佐久島の自然や海洋環境を保全・継承していくとともに、その魅力を活用した観光交流を促進することにより島内経済の発展を図り、多様な主体が共生し安心して暮らし続けることができる持続可能な離島の地域づくりを実現することを目標とし、こうした離島を起点としたSDGsの取組の輪を本市全域、市外の他地域へ普及展開していく。

普及展開は、以下の取組を通して実施していく予定である。

- ・モデル事業「官民共創による持続可能なにしおプロジェクト」の取組を効果的に進める上で、西尾市におけるSDGsに関する情報を一元的に集約・管理・発信を行う。
- ・本市を含む9市1町からなる西三河地域においては、既にSDGs未来都市に選定されている豊田市や岡崎市などとの情報共有を行うことをはじめとして、西三河地域全体での情報共有や意見交換を行う。
- ・海外に向けては、本市が特産品の販路開拓を行うタイをはじめ、各分野で関連する取組を通して、海外に向けて本市のSDGsの情報発信を行う。
- ・「Cラボ・西尾」の取組を通して官民連携事業を展開している企業・事業所等を通した情報発信を行うことで、全国的な情報発信、普及展開を図る。
- ・佐久島の離島でつながるネットワークを活用し、愛知県、三重県の離島を有する自治への情報発信をはじめ、全国の離島へと普及展開を図る。

#### (7) 資金スキーム

##### (総事業費)

3年間(2022~2024年)総額: 155,636千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつなぐ統合的取組	計
2022 年度	22,000	39,112	2,000	4,500	67,612
2023 年度	2,500	39,112	2,000	400	44,012
2024 年度	2,500	39,112	2,000	400	44,012
計	27,000	117,336	6,000	5,300	155,636

##### (活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定年度	活用予定額(千円)	活用予定の取組の概要
サステナブルな観光コンテンツ強化モデル事業(観光庁)	2022	20,000	「①-1 佐久島を中心としたサステナブルツーリズムの推進」のサステナブルなコンテンツ作りに係る部分について、活用予定。(申請予定)
地方創生推進交付金(内閣府)	2022~23	3,500	「①-2 にしお健康ツーリズムの推進」の取組について、活用予定。(申請済)
生活困窮者就労準備支援事業費等補助金(厚生労働省)	2022~	5,500	「②-1 誰一人取り残さない居場所づくり」の取組について、活用予定。(申請予定)

##### (民間投資等)

個人からのふるさと納税や企業版ふるさと納税などの支援をいただけるような魅力ある事業展開を目指していく。

(8)スケジュール

	取組名	2022 年度	2023 年度	2024 年度
統合	佐久島におけるアートを活かしたSDGsの取組	アート作品制作（～9月）展覧会、ワークショップ	常設展示	
	SDGs推進に向けた「にしおSDGsパートナー認証制度」の構築	制度設計、周知（～1月）運用	継続実施	継続実施
経済	①-1 佐久島を中心としたサステナブルツーリズムの推進	企画（～6月）ツアーコンストラクション（～12月）事業検証	継続実施	継続実施
	①-2 にしお健康ツーリズムの推進	制度設計、事業実施	継続実施	継続実施
社会	②-1 誰一人取り残さない居場所づくり	事業実施	継続実施	継続実施
	②-2 安心して暮らし続けられる地域づくりの取組	準備、実証（～12月）事業検証	継続実施	継続実施
環境	③-1 佐久島活性化事業の推進と市全域への普及	事業実施（5月アマモ種取、6月アマモ移植、7月海岸清掃、11月ゾステラマット設置、1月黒壁運動）	継続実施	継続実施
	③-2 「竹林再生構想」の推進	事業検討	継続実施	継続実施
	③-3 「再生可能エネルギー」の活用促進	事業検討	継続実施	継続実施

## 2022年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル:カーボンオフセットが紡ぐ持続可能なまちにしお

提案者名:愛知県西尾市

### 全体計画の概要:

西尾市の豊かな自然や文化などを大切に保全・継承していくことにより、本市の魅力である自然環境や自然に育まれた暮らしの価値を高めるとともに、その魅力を活用した観光交流を促進することにより地域経済を活性化し、多様な主体が共生し安心して暮らし続けることができる持続可能な地域社会の実現を目指す。

1. 将来ビジョン	地域の実態	2030年のあるべき姿
	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	本市の魅力である自然や文化の魅力を保全し、磨き、活用することで、持続可能で好循環する夢や希望で満ちあふれた未来を市民が思い描き、皆がワクワク感を持って働き、暮らすことのできる、躍動感に満ちたまち「もっとワクワクするまちにしお」を目指す。
2. 自治体SDGsに資する取組	自治体SDGsに資する取組	情報発信
	①多様なステークホルダーとの連携による推進体制の構築、離島の稼ぐ力の強化、農産物のブランド化、自然・文化資源を活かした観光交流の促進 ②誰一人取り残さない居場所づくり、若者・女性・高齢者など誰もが活躍できる地域づくり ③離島の自然環境の保全・活用、低炭素・脱炭素の地域づくり	 <b>【経済】</b> 農水産業と観光・サービス業との連携による地域経済の活性化と産業構造の多角化 <b>【環境】</b> 資源有効活用、低炭素・脱炭素社会の実現、自然・文化の保全・活用・継承 <b>【社会】</b> 少子高齢化の抑制や多様な主体の共創と生涯活躍の地域づくりによる「誰一人取り残さない」社会の実現
3. 推進体制	各種計画への反映	行政体内部の執行体制
	2020年度に「第2期西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しSDGsの視点を取り入れた改訂を行った。2023年度を始期とする「第8次西尾市総合計画」をはじめ、今後策定予定の各種計画においても、同様にSDGsとの関係性を整理し、計画の中に位置づけていく。	市長を本部長、副市長を副本部長とし、その他各部の部局長で構成する「(仮称)西尾市SDGs推進本部」を設置し、「西尾市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部」、「西尾市総合計画策定委員会」等との連携のもと、SDGs推進を各部課の横断的連携により全庁的に取り組む体制を構築する。
	自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	ステークホルダーとの連携
	民間企業の率先したSDGsの取組を進めていくため、SDGsの理念に相応しい活動を行っている企業をパートナーとする認証制度を構築する。特に優れた取組を行っている企業には、市と包括協定を締結し相互の活動を支援していく事も検討し、こうしたインセンティブにより企業の自律的なSDGsの取組を促していく。また、民間企業と連携したトップダウンによるSDGs推進支援の展開として、SDGsを理解する勉強会やセミナーなどの機会を提供し企業の意識改革を促していく。	

## 2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名:官民共創による持続可能なにしおプロジェクト

提案者名:愛知県西尾市

取組内容の概要: 愛知県内で3島しかない有人離島の一つである佐久島の自然・海洋環境の保全や共生型社会の形成等を通した持続可能な環境と暮らしを守り・継承していくとともに、その活動をブルーカーボン、グリーンカーボン事業として市内外に広く発信し波及させていくことにより、離島を起点としたSDGsの輪をつなぎ、広めていく。

